

伊仙町における長寿と早世の要因究明に関する研究事業 ーメタボリックシンドローム対策への試みー

徳之島徳洲会病院

原田美登利(福岡徳洲会病院・後期研修)、小野隆司、飯田信也

徳之島の伊仙町は長寿世界一を2名も排出したことで世界的に知られる。現在も90歳以上の長寿率は7.08%と高く、長寿の町として認識されている。また、出生率も高く2.47%と全国4位という特徴を持つ。その反面、若年者の標準化死亡比が3.78倍と非常に高く、特に男性の平均寿命が短い。人口当たりの救急発生病数も極めて多く、離島の事情もあり救急医療が大きな負担となっている。これまでの基礎的調査から伊仙町は若年者での肥満、高脂血症、糖尿病、高血圧疾患が多く、心筋梗塞、脳卒中などの動脈硬化性などによる血管性病変の発症が多いとされる。食生活習慣では若年層で高脂肪食が多く、農作業などの軽減による労働内容の変化がその基盤にある可能性が示された。数年の研究結果をもとに当病院の院長を研究代表者とした助成金を得て、平成19年度伊仙町国保ヘルスアップ事業として新たな取り組みを開始した。伊仙町では2002年、30-64歳までを対象とした健康状態・生活習慣調査を行い、2004年には40歳以上を対象にさらに踏み込んだ同調査を施行した。過去5年間のデータを基盤として発展し、2007年は厚生連健診1082人を対象に解析をすすめメタボリックシンドローム予備軍を抽出した。1082例の基本的な検査データに加えて、生活習慣に関する57項目の質問形式の情報を得て比較解析をすすめている。さらに予備軍の21例に関しては頸動脈エコー、ABIで動脈硬化の状態も評価する予定である。この21名については、3ヶ月間におよぶ食事、運動療法など生活指導を繰り返し行い、データの改善を期待するとともに、心理学的な側面より病状改善への動機付けを試み、行動変容に関する評価も行う予定である。現在、研究組織は伊仙町の保健婦、栄養士らを中心として、当病院医師、検査技師、徳之島保健所所長、島外の大学教授など有識者、今回の健康事業を島おこしに展開する事業家など参加を得てプログラムを遂行している。本年度は短期的な試みとして積極的な生活習慣改善へのアプローチを評価し、来年度以後は長期的なコーホート研究としてさらに発展する見込みである。離島では緊急を要する脳卒中、虚血性心疾患など、地理的に迅速に対応することが困難な場合も多い。離島こそ可能な限り早期発見するとともに、島民の健康への意識改革から予防医療を実現する必要があると考えている。薬物治療以前に伊仙町特有の生活習慣を改善しメタボリックシンドロームの病態を回避したい。また、この研究を起点としてヘルシーアイランド構想の実現、島おこしに発展させたい。